



「もの」や「まち」のユニバーサルデザイン



点字付きのビール

目の不自由な人でも、ジュースと区別することができます。



振動機能付きの体温計

耳の不自由な人でも、検温が終わったことが分かります。



高さが違う洗面台

小さな子どもも手が届きます。また、足元が空いているので、車いすの人も近づいて手を洗うことができます。



案内サイン

英語やサインを表示し、色分けもすることで、外国人にも男女の区別が分かるようにしています。



開けやすいビン

小さな力でフタが開くように工夫されています。点字や、握りやすくするための「くぼみ」も付いています。



ななめドラム洗濯乾燥機

取り出し口が低く、洗濯槽がななめになっているので、小さな子どもや車いすの人も使いやすいです。点字や音声ガイドも付いています。



段差がなく広い試着室

ベビーカーを押したまま、中に入ることができます。車いすの人も快適です。



昇降設備

エレベーター、エスカレーター、階段のうち、自分が使いたいものを自由に選ぶことができます。



ユニバーサルデザインとバリアフリーとの違いは？



バリアフリーは、玄関の段差をなくしたり、スロープを付けるなど、いまあるバリアを取り除いて、お年寄りや障がいのある人が使いやすいように、あとから手を加えるというものです。ユニバーサルデザインは、お年寄りや障がいのある人はもちろん、すべての人が使いやすいように、はじめから考えてデザインすることです。ユニバーサルデザインは、バリアフリーが進化したものと言えます。

ユニバーサルデザインは、アメリカのノースカロライナ大学で、^{けんちく}建築などの研究をしていたロナルド・メイス博士(1941~1998年)が、1980年代に初めて考え出したとされています。メイス博士は、子どものころから車いすに乗って生活する障がい者でした。

